

7 ホモサピエンス全史

2020.06.5

1. 135億年前 (ビッグバン)

物質とエネルギーの出現 (物質、エネルギー

物理的現象の始り

時間、空間の誕生

物理学

2. 45億年前

地球という惑星の形成される 化学

3. 38億年前

有機体(生物)が出現する 生物学

4. 600万年前

ヒトとチンパンジーの最後の共通祖先

5. 250万年前

アフリカでホモ(ヒト)属が進化する

最初の石器

6. 200万年前

アフリカからユーラシアへ

7. 50万年前

ネアンデルタール人 (ヨーロッパ、中東) の進化

8. 30万年前

火の使用

狩りに火を光、暖かさ
ライオンたちに対する恐ろしい武器
調理が可能になる

9. 20万年前

アフリカで、ホモ・サピエンスの進化

10. 7万年前

認知革命

言語の出現

歴史が始まる
(認知革命)

11. 4.5万年前

ホモ・サピエンスがオーストラリア大陸に住みつく

オーストラリア大陸の大型動物相の絶滅

12. 3万年前

ネアンデルタール人が絶滅

13. 1.6万年前

ホモ・サピエンスがアメリカ大陸に住みつく

14. 1537年前

ホモ・サピエンスが唯一生き残った人類種となる

15. 1527年前 農業革命

農業革命が始まる, 植物の栽培と動物の畜産化

16. 5700年前

最初の王、書記体系、貨幣、多神教

17. 4250年前

最初の帝国 サルゴンのアッカド帝国

中国の黄河文明、黄帝の登場

18. 2500年前

(4000~3500年前 夏→商の登場)

硬貨の発明

ペルシア帝国、周→春秋時代

インドの仏教 衆生を苦しみから解脱の真理

19. 2000年前

中国の漢帝国、ローマ帝国

キリスト教

20. 1400年前

イスラム教

21. 500年前 科学革命

科学革命が始まる

ヨーロッパ人のアメリカ大陸 各海洋の征服

地球全体の単一の歴史的領域となる

資本主義が台頭する

22. 200年前

産業革命が始まる

家畜と工業生産が 農業と市場に取って代わる

動植物の大型模倣絶滅が始まる

23. 地球という惑星の境界を超える

核兵器が 人類の生存を脅かす

生物の知的設計によって送られる

24. 未来

生命の基本原則 → 知的設計

超人からホモサピエンスに取って代わる

未来史

月からウロコの世界史

2020.06.5

1. 1万年前 - 文明の誕生

採取生活から、農耕・牧畜生活へ
大河の流域の農耕

2. 黄河文明 4,000年前 夏王朝、商王朝

3. インダス文明

ハローハロ - 文明、アリア人におお征服
モハンジョダロ

カースト制度	↑	バラモン (司祭者)
	↓	クシャトリア (王侯・武士)
	↓	ヴァイシャ (庶民)
	↓	シュートラ (隷属民)

4. エジプト文明 ヒエラポリス

5. メソポタミア文明 (川にはさめた土地) 5,000年前
現存のイラク共和国 肥沃な新月地帯
シュメール人、アッカド人、楔形文字、バビロンの塔
ヒッタイト

6. エーゲ海文明 5,000年前 クレタ島、ミナ文明、ミナ文明

7 トロイの子孫 12ムルスの 12-マ又建門

BC 753年 4. 2/ 1103 ティ-1のク

8 アツシリア帝門 古オリエント 西アジアの支配

イ ヌ ヌ ヌ ヌ	ヒ フ ヌ イ	フ ニ フ	1/2 2- 12 ニ フ	フ ニ フ ト
728BC	1190BC	672BC	729BC	664BC
アツシリア帝門 BC609				

ユ ア	新 バ ビ ロ ン ニ フ	X フ ア	1/2 フ ア	フ ニ フ ト
586BC	539BC	555	546BC	552BC

終極のケインズの本等 (マクロ経済学 奇蹟試み 著 2010.4 有斐閣)
(CD レッスン 経済学入門 塩澤修平 著 1995.5 廣成出版)
マクロ経済学 著 小田陽介、小巻泰之 著 2006.11 有斐閣刊)

1. 有効需要の原理

- (1) 国民所得は、財・サービスに対する有効需要の額によって決定される
- (2) 有効需要とは、人々の所得額に基づいて計画した需要である
- (3) 需要は、消費需要と投資需要に大別される

消費は、主として所得に依存し、所得が増加に伴い消費も増加する
投資は、主として利率に依存する。

- (4) 有効需要の原理に基づく国民所得の決定の基本図を形成す

$$Y = C(Y) + I \quad \text{--- ① (7-1) } \quad \text{Yは供給である}$$

左辺が大きい場合は需要不足、右辺が大きい場合は供給不足

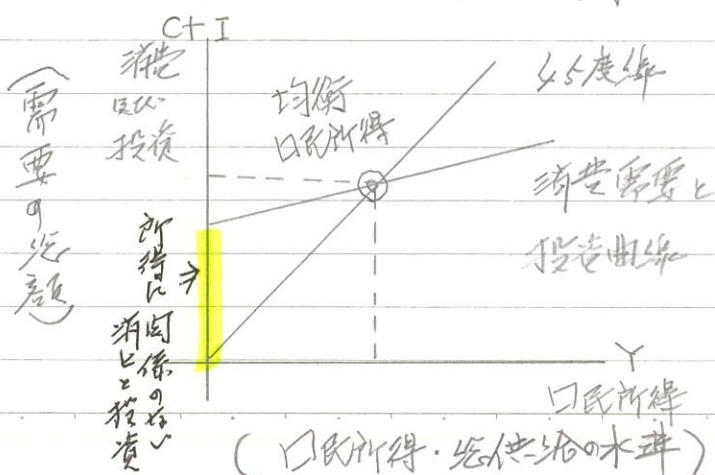
等式を成立させるためのYの水準が均衡国民所得であり、それは有効需要によって決定される。

右辺は、その
国民所得で、
消費需要と
投資需要の
総和である

富が蓄積され、資本設備や原材料の十分が存在していても

需要がなければ、財は売れず、生産は行われない (有効需要の欠如)

2. 消費関数と均衡国民所得



Y --- 供給

消費は所得が増加するに従って増加するので、消費需要と投資需要は所得とともに増加する

45度線と消費・投資線の交点が均衡国民所得を表わす。

国民所得Yは財に対する供給である。

この国民所得が投資と消費による

(国民所得・総供給の水準)

2. ^{と投資}消費と投資を足した国民所得

国民所得は供給側から

供給の範囲、需要

総供給の水準を現している。

この総供給水準（45度線）と消費需要と投資需要の
総和を表すグラフの交点が、均衡国民所得になる

$$Y = C(Y) + I \quad \text{--- ① (7-1)}$$

3. 均衡国民所得

1930年代、社会全体の供給能力

すなわち、① 労働者

② 資本設備

③ 原材料

などは、充分存在しているから、

需要が不足、供給が過剰、造ることから生じた。
(国民所得)

多くのものが売れ残る。資本主義の根本的な
現象になる

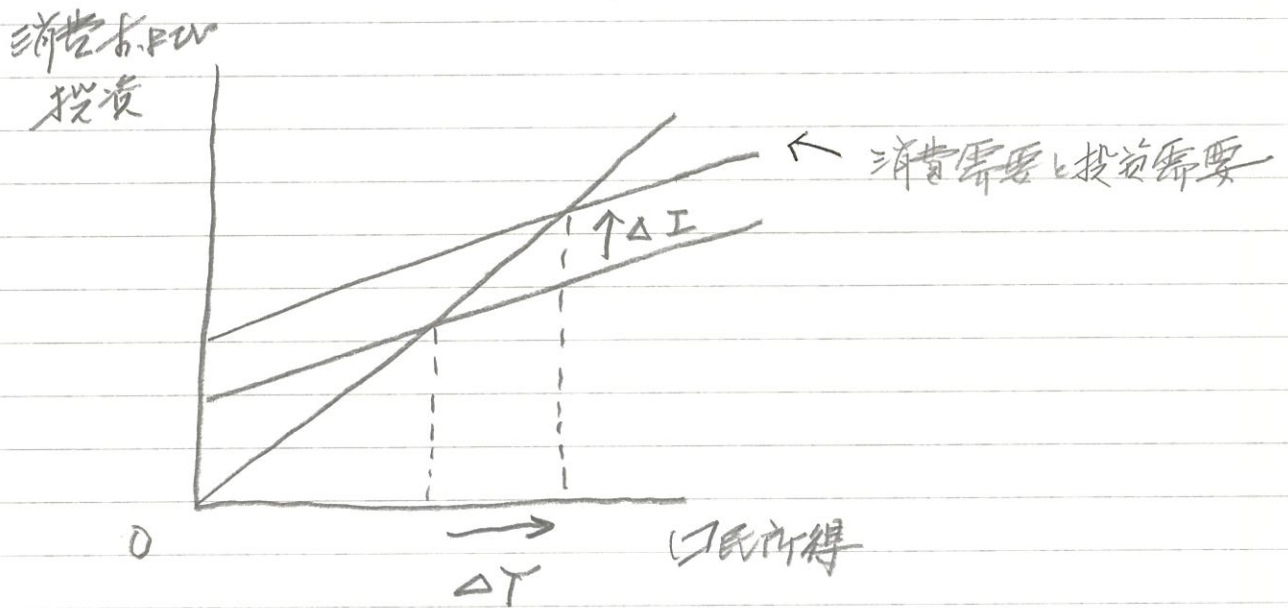
→ 消費の増加分は、限界消費性向より小さければ、この増額の総和は収束する。

$$\text{増額の総和} = \text{投資の増加分} \times \frac{1}{1 - \text{限界消費性向}}$$

5 = $\frac{1}{1 - 0.8}$ 限界消費性向が0.8で5倍の乗数効果となる

$$\Delta Y = \frac{1}{1 - c} \Delta I \quad (7-4)$$

c は限界消費性向



此类の経済の波及効果は、時間を要し、
すなわち需要の増加が実現されるわけはないのである。

(7-4)は、可能性としての最大限の効果を示している。

投資の増加分を ΔI とすると (7-1) 式は

$$Y = C(Y) + I + \Delta I \quad \text{と書き改められる。}$$

Y も増加する。その増加額は、投資の増加額 ΔI より大きい。

Y の増加分は、投資の増加分より大きくなる。

消費の増加分は、投資の増加分を初項とし、限界消費性向を公比とした無限等比級数と考えられる。とへん

政府支出や民間投資の増加、これに需要を喚起し、
当初の何倍もの需要の増加が見られる

限界消費性向が高いほど乗数効果は大きい

4. 乗数効果

ケインズ政策は乗数効果を活用して大規模な経済政策を行った

投資の増加があり、その増分を ΔI とすると ①式は、

$$Y = C(Y) + I + \Delta I \quad \text{--- ② (7-2)}$$

投資の増加分 $\rightarrow Y$ の増加 $\rightarrow C(Y)$ の増加 $\rightarrow Y$ の増加

投資の増加分に限界消費性向を掛けた分の
消費が増加する。更にその消費の増加分に
限界消費性向を掛けた分の消費の増加が生じる
--- 無限等比級数となる、その総和は、

$$\text{投資の増加分} \times \frac{1}{1 - \text{限界消費性向}} \quad (\text{乗数効果})$$

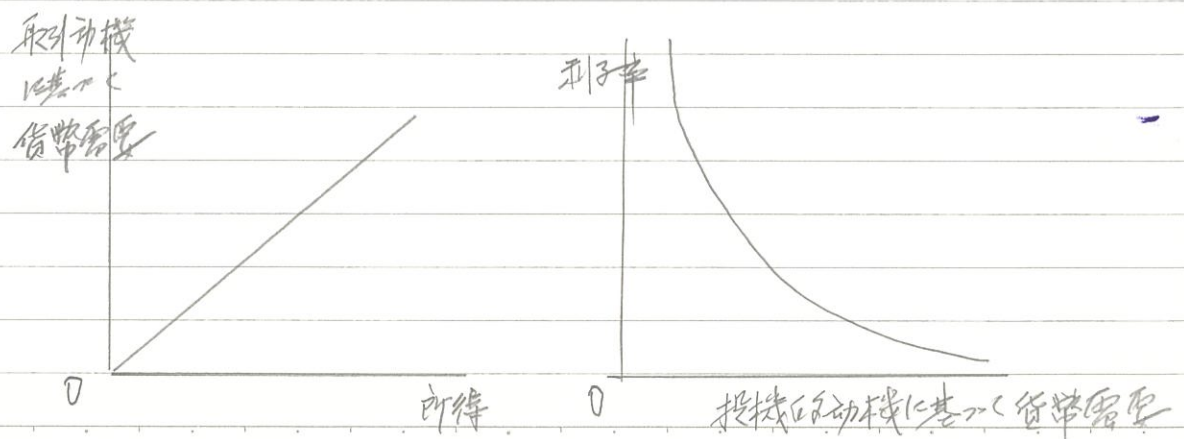
限界消費性向を c とすると

$$\Delta Y = \frac{1}{1 - c} \Delta I \quad \text{--- ③ (7-3)}$$

5. 貨幣を保有する動機

流動性 - 支払を待つの時間

- (1) 取引動機 経済取引の決済 所得に依存する
- (2) 予備的動機 不意の支出などに " "
- (3) 投機的動機 利率に依存する



6. 貨幣供給

狭義の通貨: M_1 現金通貨 振込預金

広義の通貨: M_2 " " 定期預金 (準通貨)

- (1) 一般の交換手段
- (2) 価値貯蔵手段
- (3) 計算尺度

支払手段として使、
クレジットカード、モバイル決済
などの形態が普及している

7. IS曲線 (財市場)

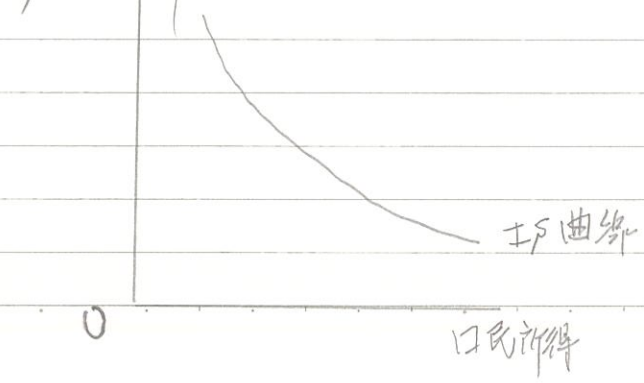
$$Y = C(Y) + I(r) \quad \text{--- (4)}$$

所得 Y から消費 $C(Y)$ を引いた残りは貯蓄であるので、
それを S で表わし、所得に依存するので、所得の関数として
 $S(Y)$ とする

この貯蓄関数を用いて 財市場の均衡条件を表すと

$$I(r) = S(Y) \quad \text{--- (5)}$$

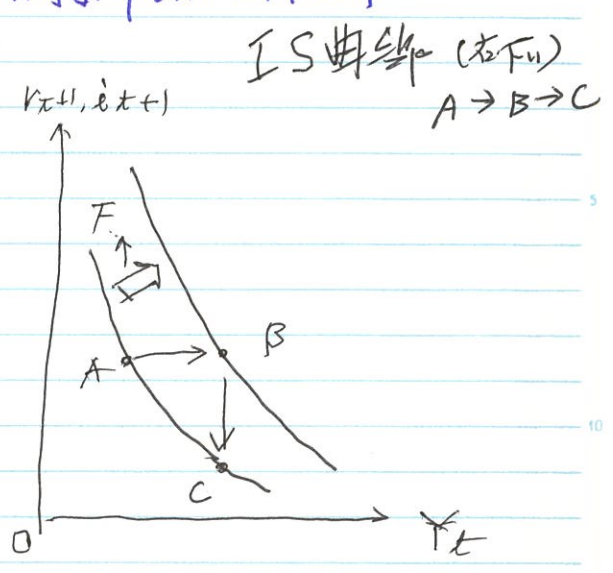
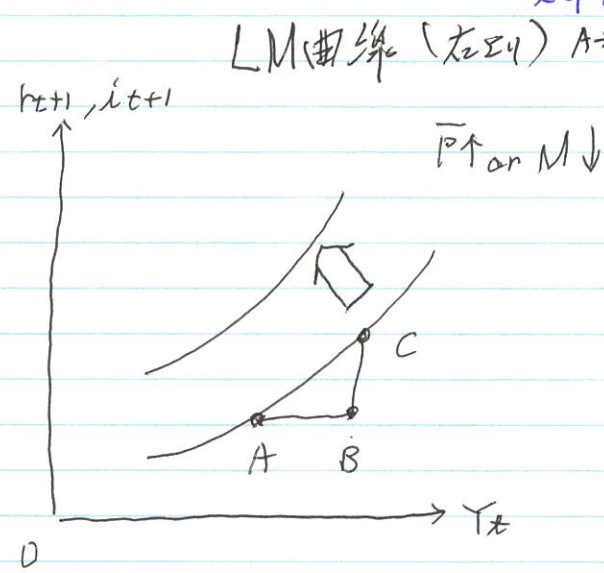
従って、財市場の均衡条件は $I = S$ すなわち 投資 = 貯蓄と
なる 利率



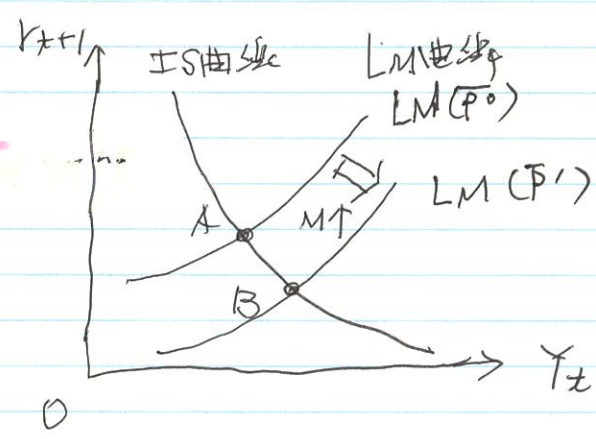
LM 曲线

L : 貨幣需要を意味する 流動性選好 (liquidity preference)
 M : 貨幣供給 (money supply)
貨幣市場の均衡条件による LM 曲线

4. IS-LM 曲线



均衡



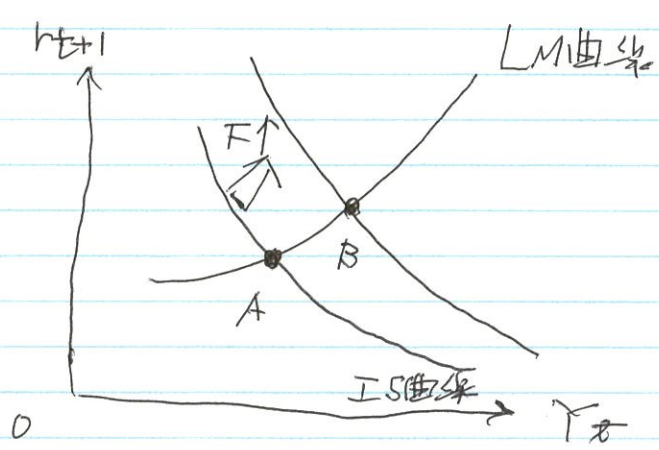
IS 曲线

I : 資本に対する需要
設備投資 investment
 S : 資本の供給による
貯蓄 (savings)
財貨市場の均衡条件による IS 曲线

5. 金融政策

いま、この経済は A の均衡にある。
たとえば、金融政策が緩和され、基礎貨幣供給量 M が増加すると、
LM 曲线は右へ下へシフトする。
その結果、貨幣需要が不变のとき超過供給が生じて、所得の増加、
利率の低下が必ずついてくる。
結果として、金融緩和により、LM 曲线が右へ下へシフトし、
新しい均衡点 B において、生産量の増大と利率の低下が起る

④、財政政策



← 今、2712経済は、
IS曲線とLM曲線の
交点Aの均衡点になる。

例えば

財政政策が拡張され、^{財政}規模Fが増加するとき、

IS曲線は右へ上へ外れる。点Aでは、資本需要が不变の中、資本供給が減少して、資本市場に超過需要が生じる。

そのため所得が増加して、資本供給を増加させるか、利率の上昇によって資本需要を減少させ、貯蓄を増加する必要がある。

貨幣市場では、利率の増加によって超過需要が生じる。

他方利率の上昇によって、貨幣需要を減少させ貨幣市場の均衡を取り戻される。

ク 大恐慌 the Great Depression の原因

(1) ヒック・テミソの支出仮説

大恐慌は、財貨・サービスに対する需要の減少によって生じたと考えられる。
株式市場の大暴落は、将来に対する不確実性を増大させ、
予備的な貯蓄を増やし、民間消費を減退させた。
こうした需要の減退は、IS曲線を左にシフトさせ、
利率は低下したにもかかわらず、GDPを減少させた。

(2) 貨幣伝説 ミンデルとヒック

FRBがマネーサプライを減少させ、LM曲線を左にシフトさせ、
利率を上昇させ、GDPを減少させた。

(3) 大恐慌の期間中、一貫して名目利率が低下傾向にあった事実から、これは(1)支出仮説の妥当性を示唆する

財政政策の主な財源は税金である
その支出が(国民生活にとって)どのような意味を持つのか

9. 財政政策の主な目的

(4インパクト) 財政政策はどの程度
経済政策の役割を占めるのか
→ 補強的な経済財政政策

- (1) 公共目的への資源の配分
- (2) 所得の再配分
- (3) 経済の安定と完全雇用の実現

有効需要が不足しているときは、国民所得が完全雇用に対応する水準よりも
小さくなり失業が存在する。

それらの場合には財政支出によって有効需要を増大させ、失業を低下
させることが図られる。

(2インパクト) 市場機構を高く評価する

10. 金融政策の主な目的

→ 金融市場の適切な活用、市場主義
の導入、マネー、レバレッジ

- (1) 物価の安定
- (2) 完全雇用の実現
- (3) 国際収支の均衡

> 二律背反

↓
政策

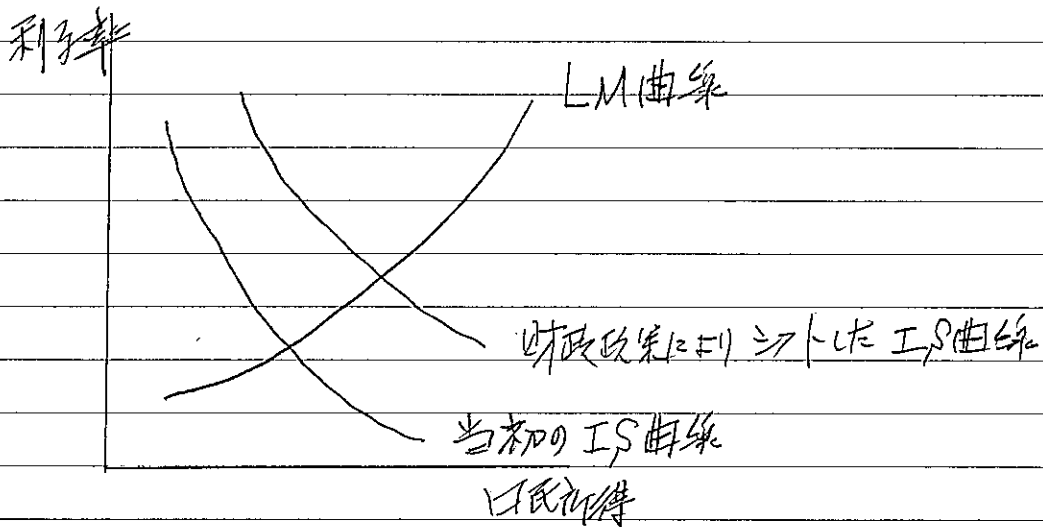
- (1) 公定歩合政策
- (2) 公開市場操作

中央銀行による債券、有価証券の売買操作

- (2) 支払準備率操作

民間銀行の中央銀行預入金の比率の操作

1. 財政(支出)政策による効果



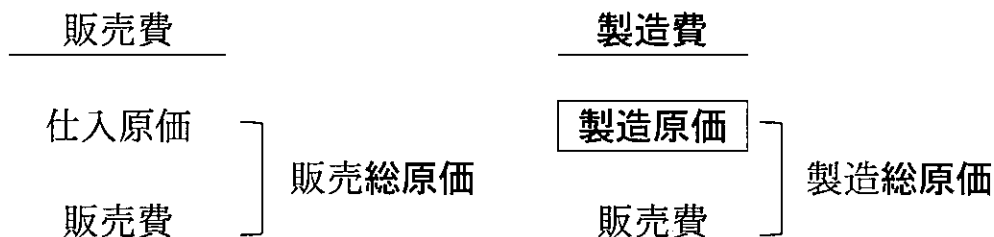
政府支出の増加以前の状態と比較して、同じ利率に対し、財市場を均衡させるための国民所得の水準が上昇している。

これは、財市場を均衡させるための利率と国民所得の組合せであるIS曲線が、政府支出の増加によって右へシフトすることを意味する。

⑦工業簿記の紹介

2020.06.08

- (1) 工業簿記は、製品の製造活動を記録、整理するシステムである
- (2) 商業簿記は、商品の仕入、販売を計算するシステム。仕入れた商品をそのまま売するため、売上原価は、仕入れたときの価額で計算する
- (3) 工業簿記では、仕入れた材料(材料費)をそのまま売るのではなくて、材料、賃金を加工(材料費、労務費、経費)する。そこで製品の製造(材料費+加工費)にかかったコストを集計する必要がある
- (4) 製品の製造にかかったコストを製造原価といい、製品の製造コストを計算することを、**原価計算**という この先原価計算の勉強は大変(面白い)
- (5) 製造原価とは、「材料費」、「労務費」、電気、水道、包装費などの「経費」消費額をいう(材料を消費して材料費、賃金を消費して労務費)
- (6) 商品販売営業の「販売費一般管理費」も大きく分けると原価ともいうしかし、工業簿記では、製造原価に集中して勉強する



営業外費用、特別損失は「原価」ではない。それらは、「非原価項目」と言って、商品の販売、製品の製造販売と関係が無いからである

- (7) 製造原価は、材料費、労務費、経費であるが、製品ごとに結びつけた、製品の「直接費」と製品の「間接費(加工費)」に分ける
- (8) 「製造直接費」とは、直接材料費、直接労務費、直接経費である
- (9) 「製造間接費」とは、間接材料費、間接労務費、間接経費である
すなわち**加工費**である

製造間接費の配賦は、工業簿記の一つの山である

工業簿記の三分法 (仕掛品製造原価報告書)

仕掛品とは、製造原価の集計中 (製造中) を処理する製造原価報告書である

(準 備)		(消 費)	(価 値)
材 料…準備	仕掛品	製 品…完成	
(購 入)	(消 費)	(製造中) …集計中	販売準備
購入した材料	製造に使った材料 (直接材料費)	直接材料費	
	製造に使った材料 (間接材料費)	間接材料費	
	左右の残高が材料残高 (未使用材料)	製造中 → 製品	販売
賃 金			
(購 入)	(消 費)		
支払った賃金	製造に使った賃金 (直接労務費)	→ 直接労務費	左右の差額が 仕掛品残高 (未完成)
	製造に使った賃金 (間接労務費)	→ 間接労務費	左右の差額が 製品残高 (未販売)
普通は残高なし	→	製造中	
経 費			
支払った経費	製造に使った経費 (直接経費)	→ 直接経費	
	製造に使った経費 (間接経費)	→ 間接経費	
普通は残高なし	→	製造中	

(準備して)

(消費して)

(資産－価値を造る)

未消費のときは資産
材料、前払費用

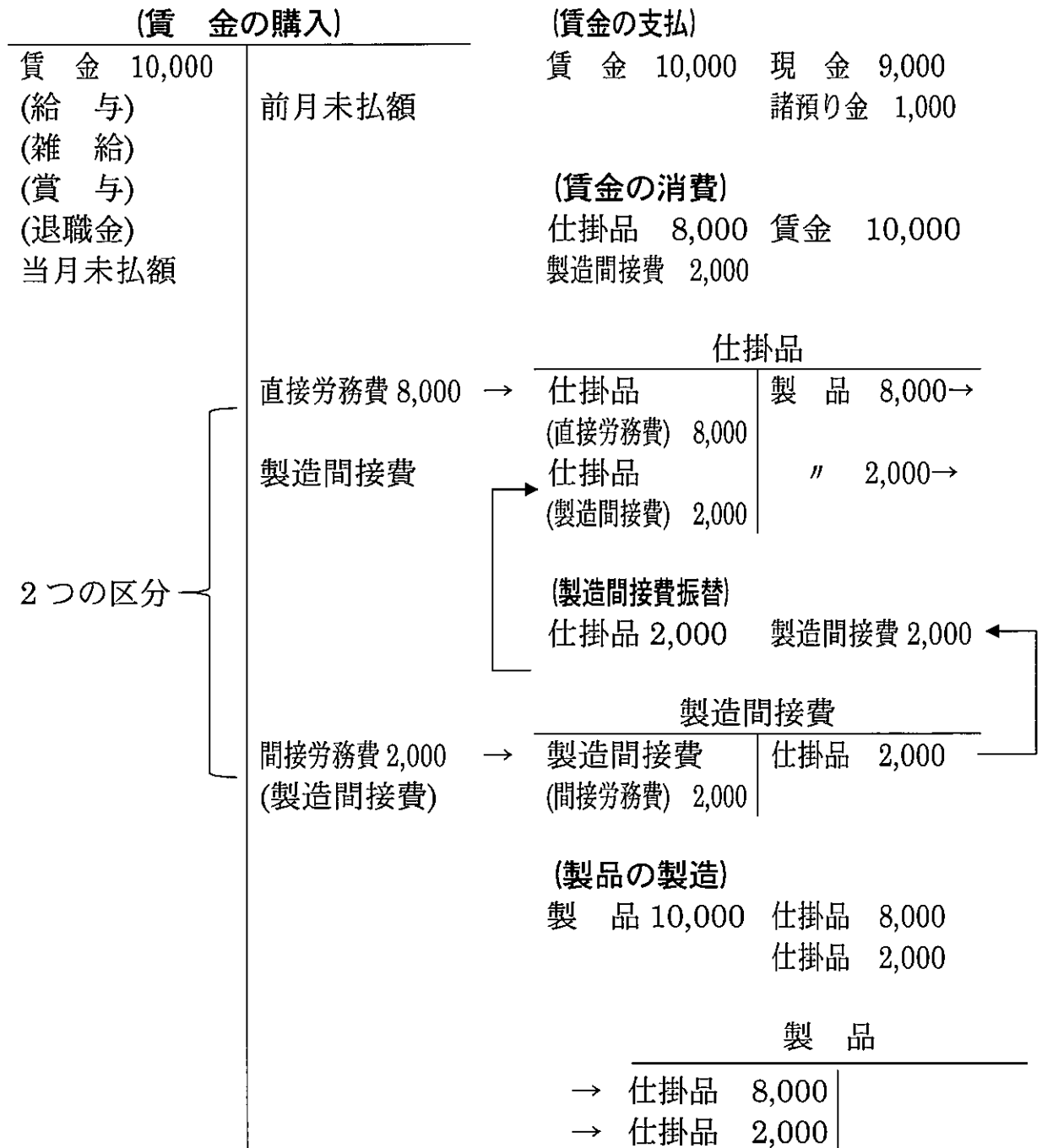
資 産
B/S 仕掛品

資 産
B/S 製品



製造原価報告書

賃金→仕掛品→製品の流れ
(労務費) (製造間接費)



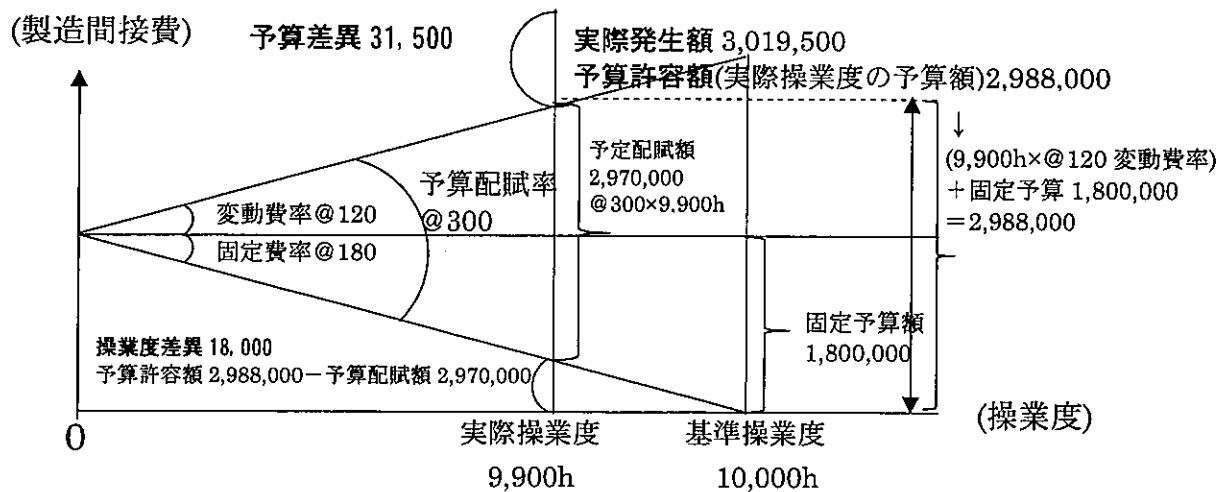
- 材料(資産)と材料費(消費、仕掛品、コスト)の区分
- 賃金(準備)と労務費(消費)の区分

⑦ 7. 製造間接費の会計

$$\begin{array}{rcl} \text{製造間接費総差異} & = & \text{予算差異} + \text{操業度差異} \\ 49,500 & & 31,500 \quad 18,000 \end{array}$$

$$\begin{array}{rcl} (1) \text{ 予算差異} & = & \text{予算許容額(実際操業度の予算額)} - \text{実際発生額} \\ \Delta 31,500(\text{不利差異}) & & 2,988,000 \quad 3,019,500 \end{array}$$

$$\begin{array}{rcl} (2) \text{ 操業度差異} & = & (\text{実際操業度} - \text{基準操業度}) \times \text{固定費率} \\ \Delta 18,000(\text{不利差異}) & & 99,000\text{h} - 10,000\text{h} \quad 180 \end{array}$$



③ (9) 補助部門費の製造部門への配賦 (相互配賦法)

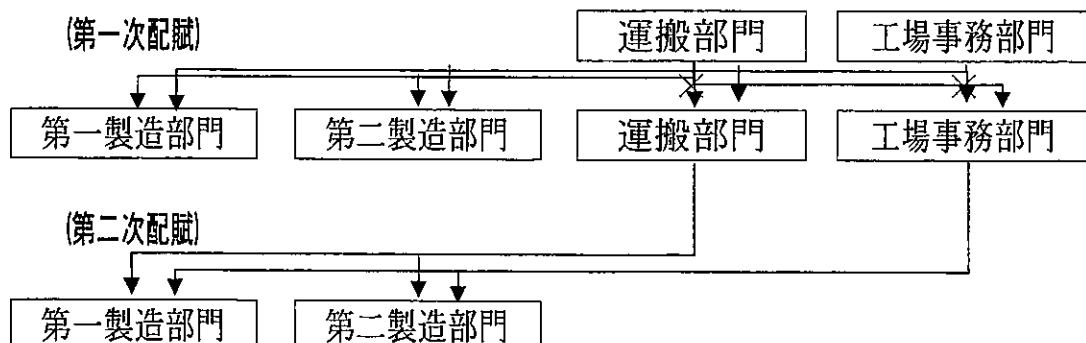
製造間接費配賦表

区 分	合 計	製造部門		補助部門	
		第一製造部門	第二製造部門	運搬部門	工場事務部門
部門個別費	2,300	1,000	500	500	300
部門共通費	1,600	800	400	240	160
部門費計	3,900	1,800	900	740	460
第一次配賦				1,200	
(運搬回数)	(12 回)	(7 回)	(3 回)	—	(2 回)
運搬部門	740	432	185		123
	$\Delta 123$				$\Delta 123 \times 1$
従業員数	(23 人)	(15 人)	(5 人)	(3 人)	(2 人)
事務部門	460	300	100	60	
	$\Delta 60$			$\Delta 60 \times 2$	
第二次配賦					
(運搬回数)	(10 回)	(7 回)	(3 回)		
運搬部門	123 $\times 1$	91	32		
従業員数	(20 人)	(15 人)	(5 人)		
事務部門	60 $\times 2$	42	18		
補助部門費	1,200	865	335	(740 + 460)	
合 計	3,900	2,665	1,235	0	0

自部門には
配賦しない

第一次配賦で
配賦できなかった
ものを配賦する

相互配賦法 (2 回で補助部門費を配賦)



9. 単純総合原価計算 (平均法と先入先出法)

- (1) 個別原価計算 — 製造指図書ごとに集計、オーダーメイド注文ごとに製品の仕様が異なる、個別の原価を計算する
- (2) 総合原価計算 — 毎回、毎月、同じ製品 (規格品) を大量に生産する場合に完成品の原価を集計し、完成品の数量で割って1個当りの原価を計算する

③

(3) 平均法と先入先出法 (きっちりと頭に入れる)

金額は借方 (投入側) から 数量は貸方 (生産量側) から

① 平均法

仕掛品	
月初仕掛品 6,050(40 個)	完成品 (200 個)
当月投入 31,000(200 個)	月末仕掛品 (30 個)
計 37,000(240 個)	(230 個)

平均値 平均値

仕掛品、完成品の計算

$$\frac{6,000 + 31,000}{30 \text{ 個} + 20 \text{ 個}} = \frac{37,000}{232 \text{ 個}} = @154$$

$$@154 \times 30 \text{ 個} = \text{当月仕掛品 } 4,620$$

$$\text{投計 } 37,000 - \text{当月仕掛品 } 4,620 = \text{当月完成 } 32,380$$

② 先入先出法

仕掛品	
月初仕掛品 6,000(40 個)	完成品 (200 個)
当月投入 31,000(200 個)	月末仕掛品 (30 個)
計 37,000(240 個)	(230 個)

(後) (先)

$$\text{末仕 } 30 \text{ 個} + \text{完 } 200 \text{ 個} - \text{初仕 } 40 \text{ 個} = 190 \text{ 個 (除月初)}$$

$$\frac{\text{当月投入 } 31,000}{\text{除去月初 } 190 \text{ 個}} = \text{仕掛 } @163$$

$$30 \text{ 個} \times @163 = \text{当月仕掛 } 4,890$$

$$\text{投計 } 37,000 - \text{当月仕掛 } 4,890 = \text{当月完成 } 32,110$$

◎ 月初仕掛品を除いた数量 290 (月末仕掛 30 個 + 当月完成 200 個 - 月初仕掛 40 個)
で、当月投入全額 31,000 を割る

① 10. 工程別総合原価計算

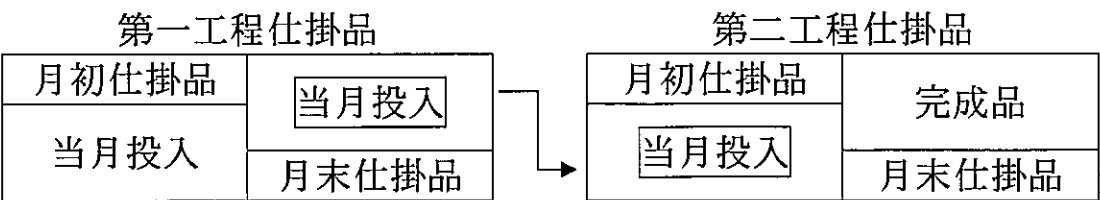
製品を作るとき工程が複数段階ある場合の原価計算

作 業	第一工程(段階)			第二工程(段階)
	材料を作る (素材から部品を作る)			材料を組立てる (部品を組立てる)
月初仕掛品	50			50
当月購入	100			80 (前工程目)
合 計	150			130
月末仕掛品	70			60
完成品	80			70

原価計算表

	第一工程		第二工程	
	直接材料費	加工費	前行程費	加工費
月初仕掛品				
当月投入				

工程別原価計算の流れ



⑤ 14. 仕損と減損 (同じ処理と考える)

(1) 仕損とは

失敗品、不合格品など

(2) 減損とは

目減り、消失減耗など(工簿上は仕損と同一に扱ってもよい)

(3) 完成品負担を完成品とする (生産完了のものは、仕損を完成品に負担する)

仕掛品	
月初仕掛品 30 個	完成品 70 個
	仕損(品)10 個
当月投入 100 個	月末仕掛品 50 個

(4) 仕損 (品) を完成品の中に加えて計算する

生産データ		製造原価データ	
月初仕掛品	30 個(50%)	(月初仕掛品)	
当月投入	100 個	直接材料費	24,000
			(@800×30 個)
合 計	130 個	加 工 費	10,500
			(@700×30 個×50%)
月末仕掛品	50 個(70%)	当月製造費用(当月投入 100 個分)	
当月完成	80 個	直接材料費	80,000
(仕損 10 個は完成品に含める)			(@800×100 個)
		加 工 費	70,000
			(@700×100 個)

(5) 原価計算表

	直接材料費	加工費	説 明
月 初 仕 掛 品	24,000	10,500	
	(30 個)@800	(15 個)@700	
当月製造費用	80,000	70,000	
(当月投入)	(100 個)@800	(100 個)@700	
合 計	104,000	80,500	
完 成 品	64,000	56,000	
	(80 個)@800	(80 個)@700	
月 末 仕 掛 品	40,000	24,500	
	(50 個)@800	(35 個)@700	
合 計	104,000	80,500	
内、仕損	800	700	
	(10 個)@800	(10 個)@700	

④ (8) 直接材料費の差異分析

生産データ		材料費	
月初仕掛	20個(50%)	20個@100	2,000
当月投入	120個	120個	12,000
合計	140個	合計	14,000
月末仕掛	40個(50%)	40個@100	4,000
当月完成品	100個	100個@100	10,000
		合計	14,000

① (投入)総差異
 $12,000 - 12,342$

② ③

投入材料費 実際材料費
 $= \Delta 342$ (不利差異)
 (△は不利差異)

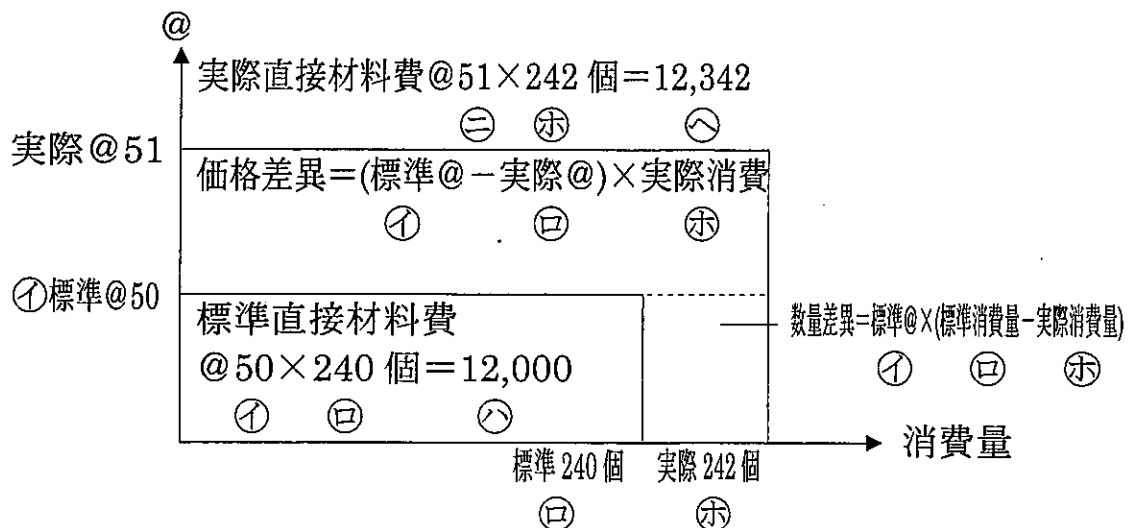
②製品 1 個当りの標準直接材料費
 $@ 50 \times 2 \text{ 個} = 100 \text{ 円}$
 標準@ 標準消費

② 価格差異
 $(\text{標準}@ - \text{実際}@) \times \text{実際消費量}$
 $50 \quad 51 \quad 242$
 ① ②
 $= \Delta 242$ (不利差異)

③当月の実際直接材料費
 $@ 51 \times 242 \text{ 個} = 12,342$
 実際@ 実際消費量

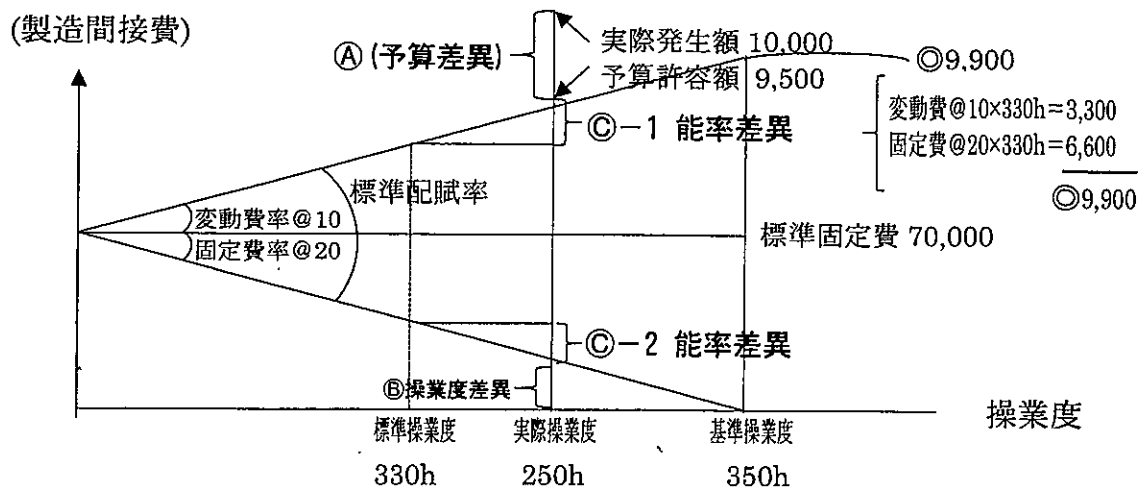
③ 数量差異
 $\text{標準}@ \times (\text{標準消費量} - \text{実際消費量})$
 $50 \quad 240 \quad 242$
 ① ② ③
 $= \Delta 100$ (不利差異)

差異分析 BOX 図



総差異 標準消費量と実際消費量の差
 価格差異 標準よりも高い(安い)材料を使った為に生じた差異(価格面の差異)価格は与えられたものでなく、獲得すべき目標
 数量差異 標準よりも、材料を多く(少なく)使った為に生じた差異(数量個、消費個の差異) 行動、作業の目標

① (11) 製造間接費の差異分析



三分法 ①、②、◎

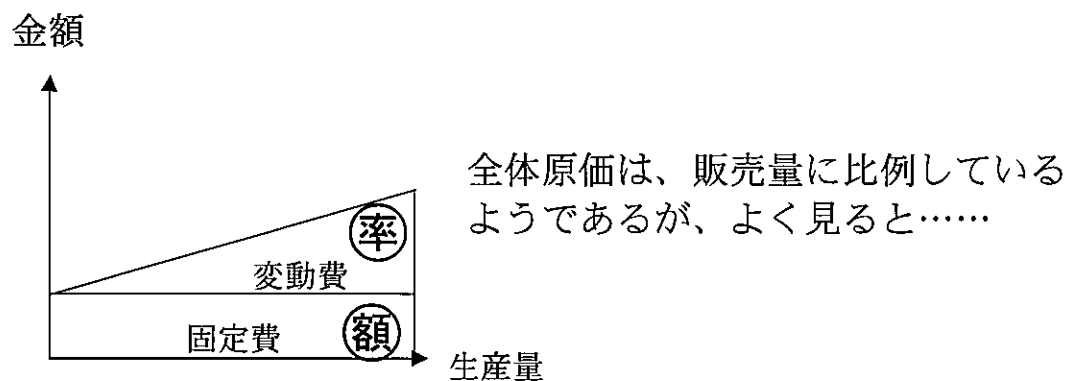
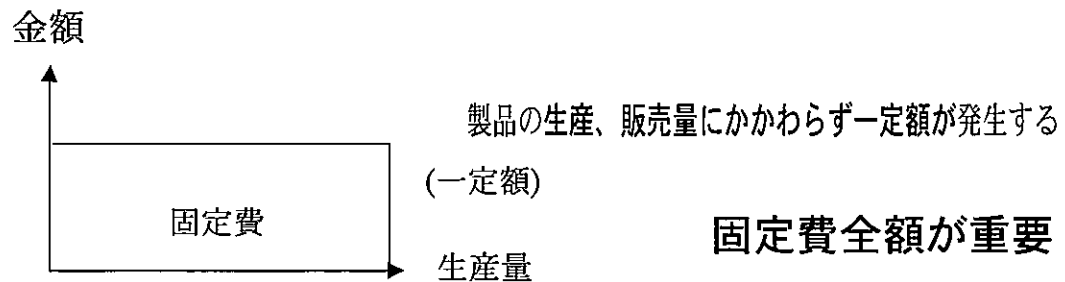
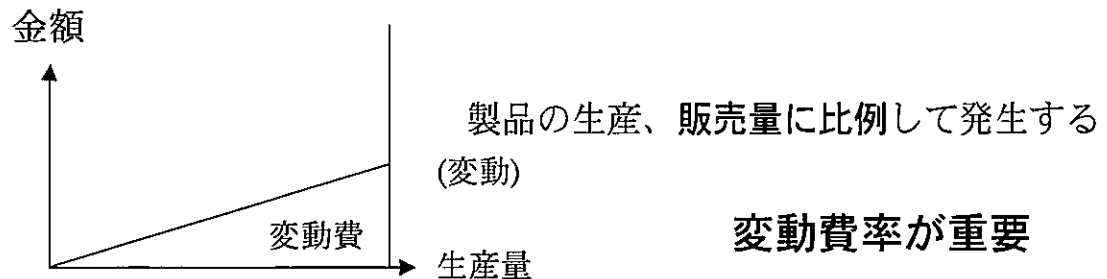
四分法 ①、②、◎-1、◎-2

⑤ 17. 直接原価計算

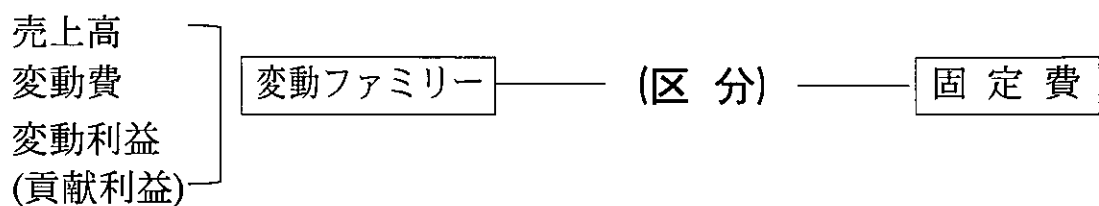
直接原価計算は、利益計算をたてるときに役に立つ

(1) 変動費と固定費 (製品 1 個当り)

材料費 (変動費) は、清貧を作れば作るほど多くかかる (1 個ごとに比例) しかし、減価償却費 (固定費) は、一定額の発生なので、製品を作れば作るほど、1 個当りの減価償却費は少なくなる。



(2) 変動ファミリーと固定費



隋 唐

7

隋の建国 581年

2018.12.17
2018.06.10
2018.08.13
No. 1
2019.04.15
2019.06.10
2020.04.11
2020.06.08

隋の文帝 (楊堅) 北周朝の王室の外戚にあたる名門の出、北周を篡奪して王位

律令制 を定めて中央集権的家体制をつくり、

科挙 (新官僚の養成、人材の選抜) の創始... 新官僚の養成
科擧制の選擧 ... 数部門に分けて才能のある人材を選別

均田制 (均等的土地所有制)

私民 → 公民

均田の負担者を把握

租庸調制度

府兵制 (徴兵制)

創世の苦心は、内部のライオンを排除し、
外部の敵を倒し、

守成の苦心は、内部の敵を倒して倒す
ことにある

煬帝 - 暴君

近年、始皇帝の再評価が行われているのと同様、煬帝の評価も
見直されている

王朝の歴史が書かれるのは、その王朝の時代である。

自らの王朝を正当化し、美化するため、前代は悪玉、暴君とされる傾向
がある。

大運河の造成は、統一王朝の実をあげるため、江南の穀倉地帯と
北方を結ぶための必然的理由があった。

大運河によって、南北は政治的に統一され、経済的に統一された。

後々 唐王朝の末期 ほとんどの地方政権にその転落から ともかくも

命脈を握る得る時は、この南北を結ぶ大運河による 経済基盤 がある。

暴君煬帝

No.

3

Date

^皇煬帝 名广、是日天下地震。

開通濟渠、自長安西苑、引洛水入于河、引河入汴、引汴入泗、以達于淮。又發民、開邗溝入江、旁樹以柳。自長安至江都、置離宮四十餘所。江都是江蘇省江都縣。

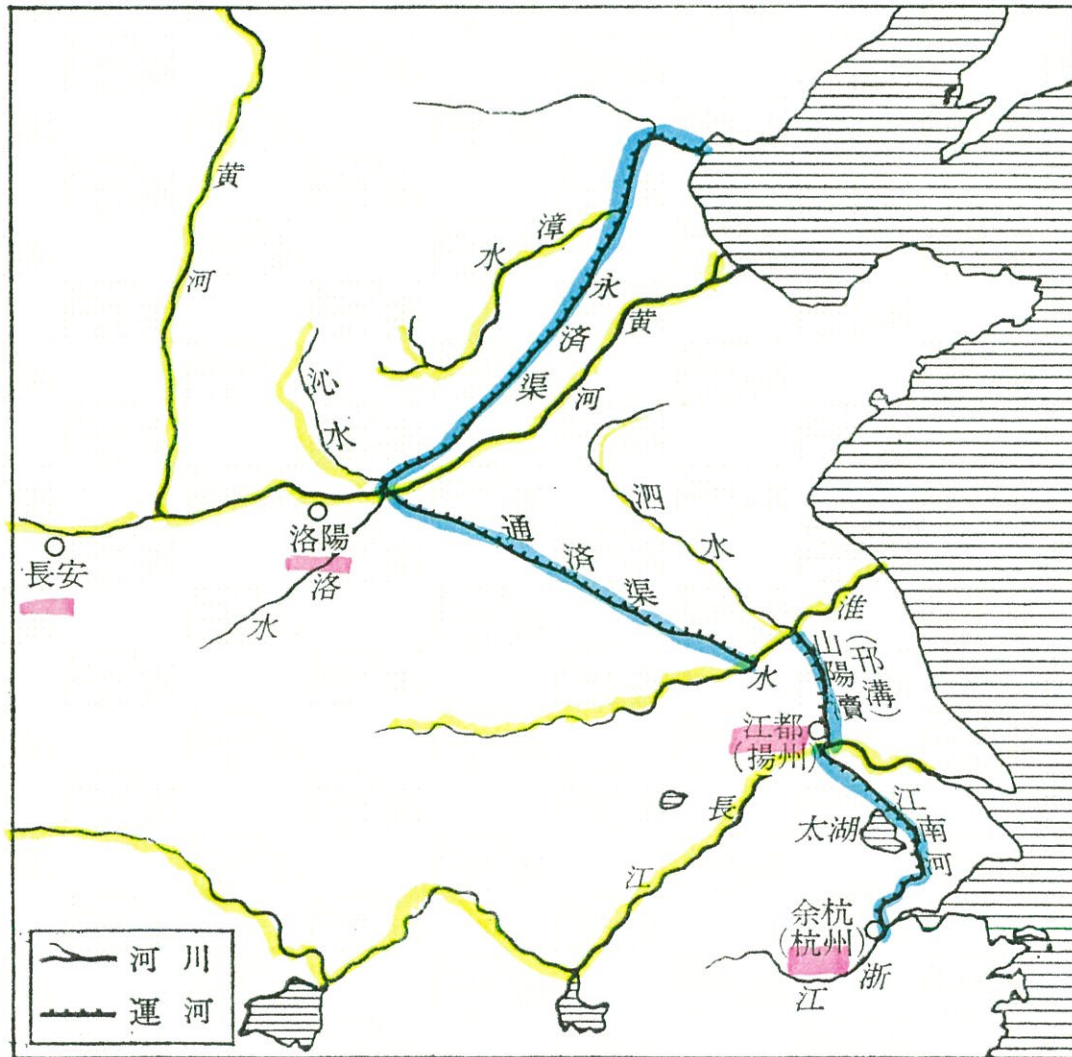
帝或如洛陽、或如(如=ゆ)江都、或北巡至榆林・金河、或如五原、巡長城。

大運河の造成は、統一王朝の美をあげたのに、江南の穀倉地帯と北方を結ぶという必然的な理由もあり、この運河によって南北は政治的に統一され、経済的にも統一された。

隋
唐

(2) -2

隋の運河



隋
唐

①-2

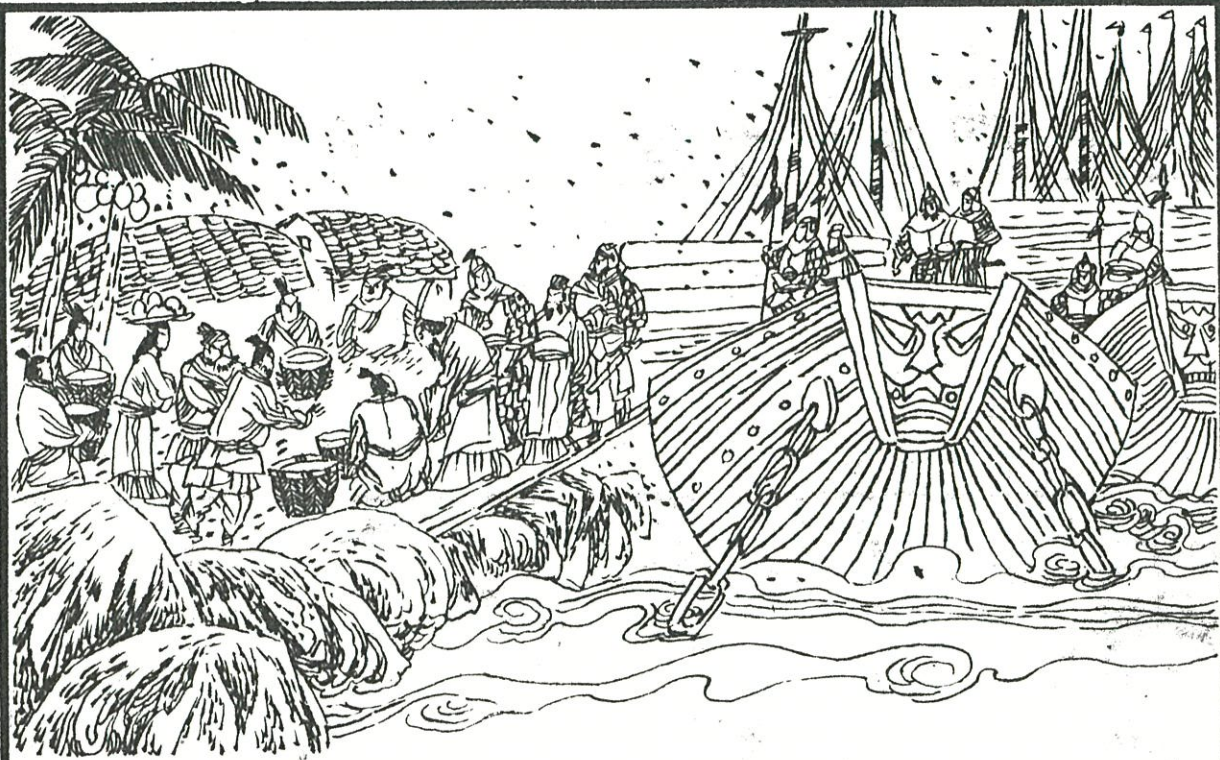
三、隋朝与边境各族的关系

隋
sui

杨 炀
yáng yáng



1. 隋与台湾的关系：隋时叫台湾为流球。607年，隋炀帝派羽骑尉朱宽和海师（熟悉海上航路的人）何蛮到流球进行访问。



2.公元 610 年，又派虎贲郎将陈稜和张镇周从义安（今广东潮州）率船队前去，当地民众看见船舰以为是商船，纷纷前来做买卖。从此后，大陆人民不断前往台湾定居。

这是隋的武备



3. 隋与突厥的关系：突厥是匈奴的别支，是当时北方最强大的游牧部落，其首领姓阿史那氏，在 6 世纪中叶，建立了一个强盛的汗国。控制的地区以蒙古草原为中心，北过贝加尔湖，东到辽海（辽河），西到西海（里海）的广大地区。图为突厥墓前的石人。

隋朝对外关系

No.

1-2

Date

公元610年 隋炀帝派军队到流球(台湾)进行访问。

当地民众看见船舰以为商船,纷纷前来做买卖。从此后,大陆人民不断前往台湾定居。

隋与日本关系比较密切,592年,日本推古女王即位,圣德太子摄政。圣德太子渴望从中引进文化,推进政治改革,于600年遣使到长安,隋文帝接见了日本来使。后来,日本又三次派使者到中国。

608年,隋炀帝派裴世清出使日本,日本举行了盛大的欢迎仪式,几百人列队鸣鼓吹号,推古女王亲自出见。后来裴世清回国时又举行送别宴会。日本还派了留学生来长安学习,中日间的衣冠文物开始大量传入日本。



18. 隋与日本关系比较密切，593年，日本推古女王即位，圣德太子摄政。圣德太子渴望从中国引进文化，推进政治改革，于600年遣使到长安，隋文帝接见了日本来使。后来，日本又三次派使者到中国。



19. 608年，隋炀帝派裴世清出使日本，日本举行了盛大的欢迎仪式，几百人列队鸣鼓吹号，推古女王亲自出见。后来裴世清回国时，又举行送别宴会。日本还派了留学生来长安学习，中国人的衣冠文物开始大量传入日本。

天下統一

南北朝分裂 270年の部族時代

文帝即位九年、平陳天下為一。

毛沢東

邓小平が周恩来や陳雲の助言を受け入れていたが、邓は毛の圧力に屈していたらしく、
失脚は免れていたろう。ところが邓が1975年に改革を、毛から距離をとった後、
77年に復活したときに、邓は大きな裁量の余地を手に入れた。

1975年 邓小平の二度目の失脚のとき、

断国して、邓を支持する四人、胡耀邦、万里、周荣鑫、张裕萍は毛から攻撃された。

毛は邓に困難を押し付け、毛沢東と対策に交渉できる政治家は邓は無いと判断した。
米ソ対立の終結に導いたが、毛沢東に敵意を向けた。

米ソはソ連に、穀物や近代施設の技術もいれられ送り渡しているが、

第二次世界大戦時代にヒトラーは改革したドイツの経験は何か、ヒトラーの初期の
拡張は英仏が強く対応したためヒトラーは勢力を拡大し西側を攻撃した。

強大なソ連の二つの弱点、穀物と技術を支援する危険性を米ソは理解しているから批判した。
会談を終えたヒトラーは「敵となる指導者は邓だ」と主張した。

1975年に邓小平が書いた中国の経済、科学、技術、文化の長期発展計画は、四人組がこれを
批判し、運動を展開し、人々は表立ってその計画を素晴らしいと言ったが、毛沢東は...

10-1. 1977年に毛沢東は暗死した。その後、政治的調和がとれた。

邓小平 エン・F. ハーゲル

唐·成立

唐·高祖 李淵

隋煬帝以淵為弘化留守。御象寬簡。人多附之。

煬帝以淵相表奇異、名應四國讖忌之。

淵懼、從酒婦賂以自晦。

名君の治世 (23年以内の治世)

太宗文武皇帝、死せ給。幼日有聖童見光曰、竜鳳光采、天日之表。

其年凡冠、必能濟世安民。高祖乃採其語爲民。

年十八挙義兵。李密降唐、初見高祖色尚傲。及見秦王、不敢仰視。退而叹曰、真英主也。

女帝の時

No.

6

Date

武后は官吏登用試験の持挙を活用した。家柄にとらわれず、
新しい人材をとらえて用いた。

大衆の名臣、功臣は過去の功績によりおこる。武后はこれを取り除き、
新しい官階を設けて、王位の継承改革を遂行した。

阿倍仲麻吕和吉备真备

唐代，日本为了吸收大陆的先进文明，加速其本国所建设和强化巩固中央集权的统治，曾一次又一次地派遣使节到中国，这就是历史上有名的遣唐使。从630年到894年的期间，一共有15次的遣唐使。每次他们学习和吸收的中国先进文明。但是时间较短只有年半左右，所以日本在每次遣唐使派遣同时，另派若干名留学生和学问僧随行，专门到中国学习。他们留在中国的时间，较遣唐使要长。所以一般都能学习到不少中国的先进文明。他们的回国移植到日本，使唐代的灿烂文明，也能在日本开花结果。